

令和2年度市立小諸図書館新図書館開館5周年記念

令和2年11月28日（土）

市長挨拶

本日、市立小諸図書館開館5周年、来館者100万人達成セレモニーに大変大勢の皆さまにご参集賜り、まことにありがとうございます。

一足先に利用を開始した小諸市役所庁舎に続きまして、平成27年11月28日に開館いたしました市立小諸図書館は、今年で開館5周年を迎えました。開館から1669日目となった本年6月22日には、来館者100万人を達成することができました。新図書館の整備につきましては、平成20年から延42回870人ももの市民の皆さまにご参加をいただいたワークショップや懇談会が開かれ、市民の夢が形になった図書館ということでたいへん関心の高い中での開館となりました。こうして本日開館5周年を迎えることができ、また、セレモニーを開催できますことは、ひとえに図書館を愛し、またご利用をいただきました多くの皆様のおかげと、心から感謝を申し上げます。

現在図書館サービスの維持と向上を目的にNPO法人本途人舎さまに業務の一部を委託しております。従事される皆様による献身的なご対応の他、数々のアイデアやイベントも行われ、本を借りるだけに留まらない付加価値の高さも利用者の増大につながっているものと考えております。長野県内でも最も早く設置された旧小諸図書館が長年にわたり培ってきた歴史をさらに積み重ねていただきまして、小諸市の文化向上と市民の皆さまの期待に応えられる図書館となるよう、引き続きNPO法人本途人舎の皆さまに置かれましては、ご尽力いただきますようお願いを申し上げます。本市が目指すネットワーク型コンパクトシティの実現に向けましてはその一翼を担う複合型中心拠点誘導施設が来年8月にオープンで、現在着々と建設が進められているところでございます。完成の暁には、この一帯に集約された市庁舎、小諸医療センター、複合型中心拠点誘導施設、そしてこの図書館を含めたこもろプラザの相乗効果によって効果の高いコンパクトシティを目指してまいりたいと考えているところでございます。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために図書館の機能を一部制限するなど、ご利用いただく皆様には大変ご不便をお掛けしております。これも私だけではなくて、お越しの皆様もそうだと思いますが、一日も早い終息を願い、今後も感染防止には特段の配慮を続けながら、今後も運営をしてまいりたいと思います。結びにあたりまして図書館に対する皆様のご支援ご協力に改めて感謝を申し上げますとともに、これからもこの小諸図書館を盛り上げていただきますようお願いを申し上げまして簡単ではございますが私からのご挨拶といたします。本日はありがとうございます。

教育長挨拶

みなさまこんにちは。市立小諸図書館が5周年を迎えます。また、今年市内の多くの皆さま、また市外からの入館者の皆さまのおかげをもちまして、開館以来来館者が100万人という大きな節目を迎えることが出来ました。人口が小諸市は4万2千人くらいですから、4万2千人の地方都市で4年ちょっとくらいで100万人という大台に乗ったということは大変なことかなあとと思います。また多くの入館者の皆さまから運営の在り方についてたいへんご支持をいただいている、これもうれしいことであり、小諸にとって誇らしいことかなといつも思っているところであります。来館者100万人目の方は、先ほどお話しにも在りましたが、6月の22日に100万人目の方をお迎えしたわけですが、コロナの関係もありまして大きなイベントができなかったということで、本日一緒にお祝いをさせていただきたいなということでもあります。ご多様な中をお越しいただきましてありがとうございます。

小諸はよく歴史と文化の街ということが言われております。住民の知の館であります図書館は非常にその中核として長い間大きな役割を果たしてきたわけです。その歴史から、今年小諸市で指定しておりますふるさとの文化遺産ということで「ふるさと遺産」に指定をされました。指定のテーマは「小諸の文化を支えてきた市立小諸図書館」という長い名前が特別についております。説明書きにはかなり歴史をたどった長い説明がありますので、紹介をさせていただきたいと思います。「市立小諸図書館は、小諸義塾に明治27年1894年に設置された図書室を基とし、小諸青年団の設置運動により、大正3年1914年に開館をした図書館です。大正11年1922年には財団法人となり、5千冊の図書を備えました。昭和15年1940年に運営が小諸町に移り、太平洋戦争のころに一時休館したものの、戦後すぐに再開をいたしました。平成16年2004年に建物の老朽化による改築が検討され、平成20年2008年に新図書館の準備室が設置されました。その後計画の変更なども含め数多くのワークショップを重ね、みんなの図書館として平成27年に現在のここに再び開館しました。蔵書の中には、1871年に出版された洋書等、小諸の文化の歴史を今に伝えていきます。」このように説明が書かれています。現在は志の高いみなさんによって創られましたNPO法人本途人舎が精力的に運営にあたっておられまして、新しい文化の構築にむけて鋭意活動していただいているところでございます。本途人舎の皆様はじめ関係の皆様にご感謝申し上げますとともに、今後ますます多くの皆様にとって大事な知の館として小諸の文化の発展のために寄与していただけるものと期待申し上げます。挨拶とさせていただきます。

100万人富田さんご挨拶

5周年 おめでとうございます。わたしは6月の22日にその入り口から入ってまいりまして 偶然100万人目になりました、富田でございます。4年半で100万人、本当に人気のある図書館なんだなあと思いました。私、小諸図書館が大好きなんですけれども、特に気に入っている点 4点あげてみたいと思います。1点目は、スタッフのみなさんがとても親切で、とても丁寧な対応を毎日してくださっている点です。いつもありがとうございます。2点目は、腰かけがすごく多いということです。本を探しながら、ちょっと腰かけて本を眺めることができるのは、私のような年代になりますと、とても助かります。3点目は、返却したばかりの本をワゴンに入れて何か所かに置いてくださっている点です。目当ての本がないときに何か面白そうな本がないかなあと思って行くと、必ず「あ、これちょっと読んでみたいわ」という本に巡り合うことができます。とてもありがたいサービスです。4つ目はあそこにある、テーマを決めて展示してあるブースがあるということです。興味があることだととても楽しく読ませていただきますし、興味がないテーマだとしても新しい気づきがあったり新しい発見があったりしています。このほかにも、蔵書数が多いとか、貸出しの機械がとても便利だとか、とても使いやすい点がたくさんあるんですけど、この100万人目という偶然の機会をいただきまして、今まで以上に小諸図書館を身近に感じる事が出来るようになりました。これからもお世話になります、通わせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。